

改正

平成18年11月29日規則第223号
平成19年3月30日規則第40号
平成19年10月15日規則第71号
平成21年6月8日規則第25号
平成22年4月1日規則第26号
平成23年3月30日規則第12号
平成23年4月15日規則第17号
平成23年6月21日規則第28号
平成24年3月30日規則第15号
平成27年6月18日規則第26号
平成28年3月31日規則第37号
平成29年3月30日規則第9号
平成30年3月31日規則第16号
平成30年11月20日規則第36号
平成31年3月18日規則第9号
令和元年5月1日規則第1号
令和2年3月27日規則第16号
令和3年3月31日規則第14号
令和4年3月11日規則第4号
令和5年3月31日規則第8号
令和5年6月19日規則第27号
令和6年2月28日規則第4号

名寄市立大学学則

目次

- 第1章 総則（第1条・第2条）
- 第2章 組織（第3条—第8条）
- 第3章 職員組織（第9条—第16条）
- 第4章 教授会、学内委員会（第17条—第19条）

- 第5章 学年、学期及び休業日（第20条—第22条）
- 第6章 修業年限及び在学年限（第23条・第24条）
- 第7章 入学（第25条—第33条）
- 第8章 授業科目、履修方法等（第34条—第40条）
- 第9章 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍（第41条—第48条）
- 第10章 卒業、学位及び資格（第49条—第51条）
- 第11章 賞罰（第52条・第53条）
- 第12章 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生、研修員及び外国人留学生（第54条—第60条）
- 第12章の2 受託研究員（第61条）
- 第12章の3 共同研究等（第62条）
- 第13章 授業料等（第63条）
- 第14章 公開講座（第64条）
- 第15章 厚生施設（第65条）
- 第16章 補則（第66条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 名寄市立大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、一般教養を深め、栄養学、看護学、社会福祉学及び社会保育学に関する高度の知識・技術を教授・研究するとともに、総合的な判断力を備えた人間性豊かな職業人を育成し、もって地域社会の保健医療の向上と福祉の増進に寄与することを目的とする。

（自己点検・評価）

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育・研究・運営等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は、別に定める。

第2章 組織

（学部・学科・定員等）

第3条 本学において設置する学部、学科及びその入学定員等は、次のとおりとする。

| | | | | | |
|----|--|----|------|-----|------|
| 学部 | | 定員 | 入学定員 | 学級数 | 収容定員 |
|----|--|----|------|-----|------|

| | 学科 | | | |
|--------|--------|------|---|------|
| 保健福祉学部 | 栄養学科 | 40人 | 1 | 160人 |
| | 看護学科 | 50人 | 1 | 200人 |
| | 社会福祉学科 | 50人 | 1 | 200人 |
| | 社会保育学科 | 50人 | 1 | 200人 |
| | 計 | 190人 | 4 | 760人 |

(事務局)

第4条 本学に事務局を置く。

2 事務局に関する事項は、別に定める。

(学生部)

第5条 本学に学生部を置く。

2 学生部に関する事項は、別に定める。

(教務部)

第6条 本学に教務部を置く。

2 教務部に関する事項は、別に定める。

(図書館)

第7条 本学に図書館を置く。

2 図書館に関する事項は、別に定める。

(コミュニティーケア教育研究センター)

第8条 本学にコミュニティーケア教育研究センター（以下、「教育研究センター」という。）を置く。

2 教育研究センターに関する事項は、別に定める。

第3章 職員組織

(職員組織)

第9条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員を置く。

2 前項に掲げる職員のほか、副学長を置くことができる。

(学部長)

第10条 学部に学部長を置き、学部の教授をもって充てる。

2 学部長は、学部に関する事項を掌理する。

(学科長及び教養教育部長)

第11条 学部の各学科に学科長を、教養教育部に部長を置き、当該学科及び教養教育部の教授をもって充てる。

2 学科長及び教養教育部長は、当該学科及び教養教育部に関する事項を掌理する。
(学生部長)

第12条 学生部に学生部長を置き、本学教授をもって充てる。

2 学生部長は、学生の厚生補導に関する事項を掌理する。
(教務部長)

第13条 教務部に教務部長を置き、本学の教授をもって充てる。

2 教務部長は、教務に関する事項を掌理する。
(図書館長)

第14条 図書館に図書館長を置き、本学の教授をもって充てる。

2 図書館長は、図書館に関する事項を掌理する。
(コミュニティアケア教育研究センター長)

第15条 教育研究センターにコミュニティアケア教育研究センター長(以下「センター長」という。)を置き、本学の教授をもって充てる。

2 センター長は、教育研究センターに関する事項を掌理する。
(名誉教授)

第16条 本学に専任の教員として多年勤務した者であって、教育上又は学術上特に功績のあった者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。

2 前項に規定する称号の授与に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 教授会、学内委員会

第17条 削除

(教授会)

第18条 本学に教授会を置く。

2 教授会に関する事項は、別に定める。
(学内委員会)

第19条 本学に入学試験に関する委員会その他必要に応じ委員会を置く。

2 委員会に関する事項は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第20条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第21条 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

2 学長は、前期及び後期の期間を必要に応じて変更することができる。

(休業日)

第22条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 開学記念日

(4) 春季休業日

(5) 夏季休業日

(6) 冬季休業日

2 前項第4号から第6号までの期間については、別に定める。

3 学長が必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休業し、又は休業日に授業を行うことができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第23条 修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第24条 学生は、8年を超えて在学することはできない。ただし、編入学、転入学及び再入学した学生の在学年数については、その者の在学すべき年数の2倍に相当する年数とする。

第7章 入学

(入学の時期)

第25条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、次条第3号から第5号までのいずれかに該当する者又は編入学、転入学及び再入学する者については、学期の始めとすることができる。

(入学の資格)

第26条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同様の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 前項の規定にかかわらず、高等学校に在籍する者であつて、優れた資質を有すると認められる者を、本学に入学させることができる。

（入学の出願）

第27条 本学に入学を志願する者（以下「入学志願者」という。）は、入学願書に別に定める書類を添えて学長に提出しなければならない。

（入学者の選考）

第28条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

（入学手続及び入学許可）

第29条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、別に定める書類及び所定の入学料を期日までに納付しなければならない。

2 学長は、前項の規定による入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 その他入学に関する必要な事項は、別に定める。

（編入学）

第30条 学長は、編入学の志願者があるときは、選考の上、3年次に入学を許可することができる。

（転入学）

第31条 学長は、他の大学に在籍している者で、本学に転入学を志願する者があるときは、受入れ可能な条件がある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

（再入学）

第32条 学長は、本学を卒業し、又は退学した者で本学に再入学を志願する者があるときは、受入れ可能な条件がある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(編入学等の場合の取扱い)

第33条 前3条の規定に基づき入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

第8章 授業科目、履修方法等

(授業科目)

第34条 授業科目、単位数及び履修方法は、別表第1のとおりとする。

2 前項に定めるもののほか、教員免許取得に係る科目を置く。教員免許取得に係る科目の授業科目、単位数及び履修方法は、別表第2のとおりとする。

(単位の計算方法)

第35条 授業科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目の単位の計算方法については、これらに必要な学修等を考慮して定める。

3 各授業科目の授業の方法及び時間数については、別に定める。

(単位の認定)

第36条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には所定の単位を認定する。ただし、前条第2項の授業科目については、必要な学修の成果を評価して所定の単位を認定する。

(成績の評価)

第37条 前条の試験等の成績は、秀、優、良、可及び不可の評語をもって表し、秀、優、良及び可を合格とする。ただし、特別の必要があるときは、その他の評語をもって成績を表すことができる。

(成績評価値)

第37条の2 前条の成績の評価を数値化し、成績評価値として学生ごとに算出することができる。

2 前項の成績評価値は、成績の通知に係る文書に記載し、又は証明に係る文書で証明することができる。

3 成績評価値の算出方法、算出期間のほか、その他成績評価値に関する事項は、別に

定める。

(他大学における授業科目の履修等)

第38条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修し修得した授業科目の単位は、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 社会保育学科において第1項の規定により他の指定保育士養成施設たる大学において履修した別表第5に係る授業科目の単位(教養教育科目を含む。)を履修させる場合(履修時に保育士資格を既に有する学生に係る履修を除く。)は、30単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、30単位を超えて別表第5外の科目に係る単位を認定することを妨げない。

(大学以外の教育施設等における学修)

第39条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる。

2 前項の規定に基づき認定することができる単位数は、前条第2項の規定に基づき本学において修得したものとみなす単位数とあわせて60単位を超えないものとする。

3 社会保育学科において第1項の規定により他の指定保育士養成施設において履修した別表第5に係る授業科目の単位(教養教育科目を含む。)を履修させる場合(履修時に保育士資格を既に有する学生に係る履修を除く。)は、30単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、30単位を超えて別表第5外の科目に係る単位を認定することを妨げない。

(入学前の既修得単位の認定)

第40条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学等において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生の制度により修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、編入学、転入学の場合は、栄養学科にあつては66単位、看護学科にあつては88単位、社会福祉学科にあつては62単位を超えないものとし、編入学、転学等の場合を除いては、第38条第2項及び前条第2項の規定により当該大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

- 3 社会保育学科において第1項の規定により他の指定保育士養成施設において履修した別表第5に係る授業科目の単位（教養科目を含む。）を修得したものとみなす場合（入学時に保育士資格を既に有する学生に係る履修を除く。）は、30単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、30単位を超えて別表第5外の科目に係る単位を認定することを妨げない。

第9章 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍

（休学）

第41条 疾病その他の事由により引き続き2箇月以上修学することができない学生は、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 学長は、疾病のため、修学することが適当でないと認められる学生に対して、休学を命ずることができる。

（休学の期間）

第42条 休学の期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、1年を限度として休学期間を延長することができる。

- 2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。
3 休学の期間は第24条の在学年限に算入しない。

（復学）

第43条 第41条の規定に基づき休学した学生は、休学の期間が満了したとき、又は休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

（転学）

第44条 他の大学等に入学又は転入学を志願する学生は、学長の許可を受けなければならない。

第45条 削除

（留学）

第46条 外国の大学等で学修することを志願する学生は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は、留学の態様によって第49条に定める在学期間に含まれることができる。
3 外国の大学等に留学する場合の授業科目の履修の取扱いについては、第38条の規定を準用する。

（退学）

第47条 退学しようとする学生は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第48条 学長は、次の各号のいずれかに該当する学生を除籍することができる。

- (1) 第24条に定める在学年限を超えた者
- (2) 第42条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
- (3) 事由なく授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (4) 死亡した者又は長期にわたり行方不明の者

第10章 卒業、学位及び資格

(卒業)

第49条 別表第1に定める授業科目を履修し単位を修得した学生については、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した学生に対して卒業証書を授与する。

(学位)

第50条 卒業した者には、次表の左欄に掲げる学科の区分に応じ、同表右欄に掲げる学位を授与する。

| 学科 | 学位 |
|--------|-----------|
| 栄養学科 | 学士（栄養学） |
| 看護学科 | 学士（看護学） |
| 社会福祉学科 | 学士（社会福祉学） |
| 社会保育学科 | 学士（保育学） |

2 前項に定めるもののほか、学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

(資格)

第51条 法令等に定める所定の授業科目を履修し単位を修得した者は、次表の左欄に掲げる学科の区分に応じ、同表右欄に掲げる資格等を取得することができる。

| 学部 | 学科 | 資格 |
|--------|------|--|
| 保健福祉学部 | 栄養学科 | 栄養士免許 管理栄養士国家試験受験資格 食品衛生管理者任用資格 食品衛生監視員任用資格 |
| | 看護学科 | 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格 看護師国家試験受験資格 |

| | | |
|--|--------|----------------------------------|
| | 社会福祉学科 | 社会福祉士国家試験受験資格 精神保健福祉士国家試験受験資格 |
| | 社会保育学科 | 保育士資格 |

2 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に規定する所定の授業科目を履修し単位を修得した者は、次表の左欄に掲げる学科の区分に応じ、同表右欄に掲げる免許状を取得することができる。

| 学科 | 資格 |
|--------|---|
| 栄養学科 | 栄養教諭一種免許状 |
| 社会福祉学科 | 高等学校教諭一種免許状（公民） 高等学校教諭一種免許状（福祉） 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者） |
| 社会保育学科 | 幼稚園教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者） |

第11章 賞罰

（表彰）

第52条 学長は、学生として表彰に値する行為があった者を、表彰することができる。

（懲戒）

第53条 学長は、学則その他の規定に違反し、又は学生としての本分に背く行為があった学生を教授会の議を経て懲戒することができる。

2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 退学の処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

- （1） 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- （2） 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- （3） 正当な理由がなく、出席が常でない者
- （4） 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第12章 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生、研修員及び外国人留学生

（科目等履修生）

第54条 学長は、本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるとき

は、本学の教育に支障がない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 前項の授業科目を履修した科目等履修生には、単位を認定することができる。

(聴講生)

第55条 学長は、本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者がいるときは、本学の教育に支障がない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

(特別聴講学生)

第56条 学長は、他の大学等の学生で本学において授業科目を履修することを志願する者がいるときは、当該他の大学等との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 前項の授業科目を履修した特別聴講学生には、単位を認定することができる。

(研究生)

第57条 学長は、本学において特定の専門事項について研究することを志願する者がいるときは、本学の教育に支障がない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

(研修員)

第58条 学長は、地方公共団体、学校等から特定の事項についての研修希望者を修学させたいとの願い出があるときは、本学の教育に支障がない場合に限り、選考の上、研修員として入学を許可することができる。

(外国人留学生)

第59条 学長は、外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者がいるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

(科目等履修生等に関する規定)

第60条 この章に定めるもののほか、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生、研修員及び外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第12章の2 受託研究員

(受託研究員)

第61条 学長は、特定の専門事項について研究を行うために本学に研究者を派遣しようとする者から派遣の願い出があるときは、本学の教育に支障がない場合に限り、選考の上、受託研究員として受入れを許可することができる。

- 2 受託研究員に関し必要な事項は、別に定める。

第12章の3 共同研究等

(共同研究及び受託研究)

第62条 学術研究を通して民間企業等との交流又は連携を図り、社会に対して貢献するため、本学において共同研究及び受託研究を行うことができる。

- 2 共同研究及び受託研究に関し必要な事項は、別に定める。

第13章 授業料等

(授業料等)

第63条 本学の授業料、聴講料、入学検定料、入学料、公開講座講習料、研究料、施設整備費、教育研究振興費及び実験実習活動費の額、納付方法等は、名寄市立大学の授業料等徴収条例（平成18年名寄市条例第84号）及び名寄市立大学の授業料等徴収条例施行規則（令和2年名寄市規則第19号）の定めるところによる。

第14章 公開講座

(公開講座)

第64条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

- 2 前項で定める公開講座のうち、教員その他特定の職業に従事している者等の再教育又は資格取得を目的とする講座においては、その受講者に所定の単位を認定することができる。
- 3 第1項の規定に基づき開設する公開講座の受講生に対し、当該講座における単位認定の有無、目的、取得可能資格等を勘案し、前条に定める公開講座講習料（以下「講習料」という。）を徴収することができる。
- 4 前項に定める講習料の徴収を行う場合、学長は教授会に対し講習料の額、必要な事項等を報告する。

第15章 厚生施設

(学生寮)

第65条 本学に学生寮を置く。

- 2 学生寮に関する事項は別に定める。

第16章 補則

(実施規定)

第66条 この規則の実施に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規則の施行の日の前日までに名寄市大学設置準備室で行った入学者の選考、入学手続等については、この規則の相当規定に基づいて行う選考、入学手続等とみなす。
- 3 この規則の改正は、名寄市立大学教授会に諮り決定するものとする。
- 4 第3条の規定にかかわらず、平成18年度から平成21年度までの間における3年次編入学員及び収容定員は、次のとおりとする。

| 期間 学科 | 平成18年度 | | 平成19年度 | | 平成20年度 | | 平成21年度 | |
|----------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 3年次編入 | 収容定員 | 3年次編入 | 収容定員 | 3年次編入 | 収容定員 | 3年次編入 | 収容定員 |
| 栄養学科 | 0人 | 40人 | 0人 | 80人 | 3人 | 123人 | 3人 | 166人 |
| 看護学科 | 0人 | 50人 | 0人 | 100人 | 5人 | 155人 | 5人 | 210人 |
| 社会福祉学科 | 0人 | 50人 | 0人 | 100人 | 7人 | 157人 | 7人 | 214人 |
| 計 | 0人 | 140人 | 0人 | 280人 | 15人 | 435人 | 15人 | 590人 |

附 則 (平成18年11月29日規則第223号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年3月30日規則第40号)

この規則は、公布の日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則 (平成19年10月15日規則第71号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年6月8日規則第25号)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 平成21年4月1日前において本学の学生であった者の授業科目、単位数及び履修方法は、改正後の名寄市立大学学則別表第1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成22年4月1日規則第26号)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 平成22年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成23年3月30日規則第12号)

(施行期日)

- この規則は、平成23年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 平成23年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の別表第1及び別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成23年4月15日規則第17号)

この規則は、公布の日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則 (平成23年6月21日規則第28号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成24年3月30日規則第15号)

(施行期日)

- この規則は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 平成24年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の別表第1の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 第30条の規定により、平成24年度又は平成25年度において看護学科若しくは社会福祉学科の3年次に編入学を許可された者については、改正後の別表第1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成27年6月18日規則第26号)

(施行期日)

第1条 この規則は、公布の日から施行し、この規則による改正後の名寄市立大学学則の規定は、平成27年4月1日から適用する。

(平成24年度から平成26年度までの間に入学した者に係る第37条及び第37条の2の改正規定の適用区分)

第2条 この規則の施行前の名寄市立大学学則で行われた平成24年度から平成26年度までの間に入学した者に係る処分、手続その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

- 平成24年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の規定

にかかわらず、なお従前の例による。

(平成26年度に入学した者に係る第51条第1項及び別表第1の1の改正規定の適用区分)

第3条 この規則の施行前の名寄市立大学学則第51条第1項及び別表第1の1で行われた平成26年度に入学した者に係る処分、手続その他の行為は、この規則の第51条第1項及び別表第1の1によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

2 平成26年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(平成25年度から平成26年度までの間に栄養学科に入学した者に係る別表第1の2(1)、別表第3及び別表第4の適用区分)

第4条 この規則の施行前の名寄市立大学学則別表第1の2(1)、別表第3及び別表第4で行われた平成25年度から26年度までの間に栄養学科に入学した者に係る処分、手続その他の行為は、この規則の別表第1の2(1)、別表第3及び別表第4によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

2 平成25年4月1日の前日において本学栄養学科の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 平成26年度以前に、第30条の規定により栄養学科の3年次に編入学を許可され、平成27年4月1日の前日において本学栄養学科の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(平成26年度に看護学科に入学した者に係る別表第1の2(2)の適用区分)

第5条 この規則の施行前の名寄市立大学学則別表第1の2(2)で行われた平成26年度に看護学科に入学した者に係る処分、手続その他の行為は、この規則の別表第1の2(2)によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

2 平成26年4月1日の前日において本学看護学科の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(平成25年度から平成26年度までの間に社会福祉学科に入学した者に係る別表第1の2(3)の適用区分)

第6条 この規則の施行前の名寄市立大学学則別表第1の2(3)で行われた平成25年度から26年度までの間に社会福祉学科に入学した者に係る処分、手続その他の行為は、この規則の別表第1の2(3)によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

2 平成25年4月1日の前日において本学社会福祉学科の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 3 平成26年度以前に、第30条の規定により社会福祉学科の3年次に編入学を許可され、平成27年4月1日の前日において本学社会福祉学科の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成28年3月31日規則第37号）

（施行期日）

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 平成28年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 第30条の規定により、平成28年度又は平成29年度において栄養学科、看護学科若しくは社会福祉学科の3年次に編入学を許可された学生は、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 第3条の規定にかかわらず、平成28年度から平成31年度までの間における社会保育学科に係る3年次編入学員及び収容定員は、次のとおりとする。

| 期間 学科 | 平成28年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 平成31年度 | |
|------------|-----------|------|-----------|------|-----------|------|-----------|------|
| | 3年次編 入 | 収容定員 | 3年次編 入 | 収容定員 | 3年次編 入 | 収容定員 | 3年次編 入 | 収容定員 |
| 社会保育 学科 | 0人 | 50人 | 0人 | 100人 | 3人 | 153人 | 3人 | 206人 |
| 計 | 15人 | 640人 | 15人 | 690人 | 18人 | 743人 | 18人 | 796人 |

附 則（平成29年3月30日規則第9号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月31日規則第16号）

（附則）

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
（名寄市立大学短期大学部の廃止に伴う経過措置）
- 2 この規則の施行の前日に名寄市立大学短期大学部に在学していた者に係る学籍簿は、名寄市立大学において保存する。
- 3 この規則の施行の前日に名寄市立大学短期大学部に在学していた者から学籍に係る証明書の交付申請があったときは、名寄市立大学長が交付するものとする。

附 則（平成30年11月20日規則第36号）

（施行期日）

1 この規則は、公布の日から施行する。

(平成28年度から平成30年度までの間に入学した者に係る改正規定の適用区分)

2 この規則の施行前の名寄市立大学学則別表第3及び別表第4で行われた平成28年度から平成30年度までの間に入学した者に係る処分、手続その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

3 平成28年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成31年3月18日規則第9号)

改正

令和元年5月1日規則第1号

(施行期日)

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成31年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、看護学科の学生であった者については、改正後の別表第1の2学科別専門教育科目(2)看護学科の区分の専門分野のうち、基礎看護学にかかる授業科目は除く。

3 第31条の規定により、平成31年度又は令和2年度において栄養学科、社会福祉学科又は社会保育学科の3年次に転入学を許可された者については、改正後の別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (令和元年5月1日規則第1号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (令和2年3月27日規則第16号)

(施行期日)

1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 令和2年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

3 第30条の規定により、令和2年度又は令和3年度において看護学科の3年次に編入学を許可された者については、改正後の別表第1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (令和3年3月31日規則第14号)

(施行期日)

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 令和3年4月1日の前日において本学の学生であった者については、改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

3 第30条の規定により、令和3年度又は令和4年度において栄養学科、社会福祉学科又は社会保育学科の3年次に編入学を許可された者については、改正後の別表第1又は別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (令和4年3月11日規則第4号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則 (令和5年3月31日規則第8号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則 (令和5年6月19日規則第27号)

この規則は、令和5年7月1日から施行する。

附 則 (令和6年2月28日規則第4号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

別表第1 (第34条、第49条関係)

1 教養教育科目

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | |
|------------|----------|---------------------|----|----|--|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 言語・情報・スポーツ | 言語・リテラシー | 英語Ⅰ〔読む・書く・聴く〕 | 1 | | 卒業の要件 必修7単位 及び、左記の 選択必修12 単位を含め、 合計22単位 以上を修得 すること。た だし、看護学 科について は、左記「情 |
| | | 英語Ⅱ〔読む・書く・聴く〕 | 1 | | |
| | | 英語Ⅲ〔速読・多読〕 | | 1 | |
| | | 英語Ⅳ〔速読・多読〕 | | 1 | |
| | | コミュニケーション英語Ⅰ〔会話〕 | 1 | | |
| | | コミュニケーション英語Ⅱ〔会話〕 | 1 | | |
| | | コミュニケーション英語Ⅲ〔発表・討論〕 | | 1 | |
| | | 入門ハンデル | | 1 | |

| | | | | | | |
|------------|---------|-------------------------|---|---|-----------------------|---|
| | | 入門ドイツ語 | | 1 | | 報統計」中の「統計学」を必ず履修するとともに、「人と文化・思想」の「2科目4単位以上」の中に「生命倫理」を、「人と自然・環 |
| | | 入門手話 | | 1 | | |
| | | 基礎演習 | 1 | | | |
| | | 専門基礎演習 | 1 | | | |
| | 情報統計 | 情報処理Ⅰ〔基礎〕 | 1 | | | |
| | | 情報処理Ⅱ〔ネットワーク・コミュニケーション〕 | | 1 | | |
| | | 統計学 | | 2 | | |
| | スポーツ | スポーツ理論 | | 2 | | |
| | | スポーツ実技Ⅰ | | 1 | | |
| スポーツ実技Ⅱ | | | 1 | | | |
| 人と社会・自然の理解 | 人と文化・思想 | 教育学 | | 2 | この区分から2科目4単位以上修得すること。 | 境」の「1科目2単位以上」の中に「生命科学」を必ず含むこと。社会福祉学科については、左記の「人と文化・思想」の「2科目4単位以上」の中に「心理学」を必ず含むこと。社会保育学科については、「人と社会・制度」の |
| | | 哲学 | | 2 | | |
| | | 心理学 | | 2 | | |
| | | 生命倫理 | | 2 | | |
| | | 文化人類学 | | 2 | | |
| | | 芸術文化論 | | 2 | | |
| | 人と社会と制度 | 日本国憲法 | | 2 | この区分から2科目4単位以上修得すること。 | |
| | | 経済学 | | 2 | | |
| | | 現代経済学 | | 2 | | |
| | | 社会学 | | 2 | | |
| | | ジェンダー論 | | 2 | | |
| | 人と自然・環境 | 化学 | | 2 | この区分から1科目2単位以上修得すること。 | |
| | | 生物学 | | 2 | | |
| | | 生命科学 | | 2 | | |
| | | 生態学 | | 2 | | |
| | | 地球環境科学 | | 2 | | |

| | | | | | | |
|-----------|-----------|----------------|--|---|--------------------------|---|
| | | | | | こと。 | 「2科目4 単位以上」の 中に「日本国 憲法」を必ず 含めること。 |
| 地域の 理解 | 地域の 理解 | 地域社会論 | | 2 | この区 | |
| | | 北海道の地域資源 | | 2 | 分から | |
| | | 北海道の野外レクリエーション | | 2 | 1科目 | |
| | | 北海道の農と食 | | 2 | 2単位 以上修 得する こと。 | |

2 学科別専門教育科目

(1) 栄養学科

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | |
|------------|------------------|------------|-----|----|---|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 専門基 礎分野 | 社会・環 境と健 康 | 臨床心理学 | | 2 | 必修 専門基礎分野か ら43単位、専門分 野から50単位計 93単位を修得す ること。 選択 専門基礎分野、専 門分野から13単 位以上を修得す ること。 |
| | | 家族社会学 | | 2 | |
| | | 人権と法 | | 2 | |
| | | 生涯発達論 | 2 | | |
| | | 公衆衛生学 | 2 | | |
| | | 公衆衛生学実習 | 1 | | |
| | | 社会福祉概論 | 2 | | |
| | | 保健医療福祉連携論 | 1 | | |
| | | 疫学 | | 2 | |
| | | 健康管理論 | 2 | | |
| | | 健康管理論実習 | 1 | | |
| | | 介護概論 | | 2 | |
| | | 医学概論 | | 2 | |
| | | 医療福祉論 | | 2 | |
| | | 地域との協働Ⅰ | 1 | | |
| | | 地域との協働Ⅱ | 1 | | |
| | | 地域との協働Ⅲ | | 2 | |
| | | 人体の 構造と | 解剖学 | 2 | |
| | 生理学 | | 2 | | |

| | | | | |
|---------|-------------|---------|-------|---|
| | 機能及び疾病の成り立ち | 解剖生理学実験 | 1 | |
| | | 生化学Ⅰ | 2 | |
| | | 生化学Ⅱ | 2 | |
| | | 生化学実験Ⅰ | 1 | |
| | | 生化学実験Ⅱ | 1 | |
| | | 病理学 | 2 | |
| | | 感染微生物学 | 2 | |
| | | 薬理学 | | 2 |
| | | 運動生理学 | | 2 |
| | | 臨床医学 | 2 | |
| | | 食べ物と健康 | 食品学総論 | 2 |
| | 食品学各論 | | 2 | |
| | 食品学実験Ⅰ | | 1 | |
| | 食品学実験Ⅱ | | 1 | |
| | 食品衛生学 | | 2 | |
| | 食品衛生学実験 | | 1 | |
| | 食品機能学 | | | 2 |
| | 食品の保存と製造 | | | 2 |
| | 食品製造実習 | | | 1 |
| | 食料経済学 | | | 2 |
| | 食品有機化学 | | | 2 |
| | 調理学 | | 2 | |
| | 専門分野 | 基礎栄養学 | 基礎栄養学 | 2 |
| 基礎栄養学実験 | | | 1 | |
| 応用栄養学 | | 応用栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | 応用栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | 応用栄養学Ⅲ | 2 | |
| | | 応用栄養学実習 | 1 | |

| | | | | | |
|---------|---------|------------|---|---|--|
| | | スポーツと栄養 | | 2 | |
| 栄養教育論 | 栄養教育論 | 栄養教育総論 | 2 | | |
| | | 栄養教育各論Ⅰ | 2 | | |
| | | 栄養教育各論Ⅱ | 2 | | |
| | | 栄養教育各論実習 | 1 | | |
| 臨床栄養学 | 臨床栄養学 | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | | |
| | | 臨床栄養学Ⅱ | 2 | | |
| | | 臨床栄養学Ⅲ | 2 | | |
| | | 臨床栄養学Ⅳ | 2 | | |
| | | 臨床栄養学実習Ⅰ | 1 | | |
| | | 臨床栄養学実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 臨床栄養学実習Ⅲ | 1 | | |
| | | 臨床栄養学実習Ⅳ | 1 | | |
| 公衆栄養学 | 公衆栄養学 | 公衆栄養学Ⅰ | 2 | | |
| | | 公衆栄養学Ⅱ | 2 | | |
| | | 公衆栄養学実習 | 1 | | |
| 給食経営管理論 | 給食経営管理論 | 給食経営管理論Ⅰ | 2 | | |
| | | 給食経営管理論Ⅱ | 2 | | |
| | | 給食経営管理論実習Ⅰ | 1 | | |
| 総合演習 | 総合演習 | 総合演習Ⅰ | 1 | | |
| | | 総合演習Ⅱ | 2 | | |
| 臨地実習 | 臨地実習 | 給食経営管理論実習Ⅱ | 1 | | |
| | | 臨床栄養学臨地実習Ⅰ | 2 | | |
| | | 臨床栄養学臨地実習Ⅱ | | 2 | |
| | | 公衆栄養学臨地実習 | 1 | | |
| 卒業研究 | | 卒業研究 | 4 | | |

(2) 看護学科

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | |
|-----|------|-------|----|----|--------|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 専門基 | 身体の | 人体形態学 | 2 | | 必修、選択必 |

| | | | | | | |
|----------------|------------------------|------------------------|---|---|---|--|
| 礎分野 | しくみ | 人体機能学 | 2 | | 修合わせて、 専門基礎分 野から34単 位、専門分野 から72単位 を修得する こと。 | |
| | | 生化学 | 2 | | | |
| | | 栄養学 | 1 | | | |
| | | 病理学 | 2 | | | |
| | | 臨床治療学Ⅰ | 2 | | | |
| | | 臨床治療学Ⅱ | 1 | | | |
| | | 臨床治療学Ⅲ | 1 | | | |
| | | 感染微生物学 | 1 | | | |
| | | 薬理学 | 1 | | | |
| | | 臨床薬理学 | 1 | | | |
| | 人間と 健康 | 生涯発達論 | 2 | | | 「人間 と健康」 及び「人 間の健 康と社 会生活」 の区分 から、選 択4単 位以上 を修得 するこ と。 |
| | | 家族社会学 | 2 | | | |
| | | 人間工学 | | 2 | | |
| | | カウンセリング・コミュニケー ション論 | | 2 | | |
| | 人間の 健康と 社会生 活 | 保健医療福祉連携論 | 1 | | | |
| | | 社会福祉概論 | 1 | | | |
| | | 地域との協働Ⅰ | 1 | | | |
| | | 地域との協働Ⅱ | 1 | | | |
| | | 地域との協働Ⅲ | | 2 | | |
| | | 公衆衛生学 | 2 | | | |
| 人間関係論 | | 2 | | | | |
| 疫学 | | 2 | | | | |
| 保健医療福祉行政論Ⅰ | | | 2 | | | |
| 保健医療福祉行政論Ⅱ | | | 2 | | | |
| 福祉環境論 | | | 2 | | | |
| 人権と法 | | | 2 | | | |
| ソーシャルインクルージョン論 | | 2 | | | | |
| 医療福祉論 | | 2 | | | | |
| 専門分 野 | 基礎看 護学 | 看護学概論 | 2 | | | |
| | | 看護技術論 | 1 | | | |

| | | | | | |
|-------|--|---------------|---|--|--|
| | | 看護共通技術Ⅰ | 1 | | |
| | | 看護共通技術Ⅱ | 1 | | |
| | | 基礎看護技術Ⅰ | 1 | | |
| | | 基礎看護技術Ⅱ | 1 | | |
| | | 基礎看護技術Ⅲ | 1 | | |
| | | 基礎看護技術Ⅳ | 1 | | |
| | | ヘルスアセスメント | 1 | | |
| | | 看護過程演習 | 1 | | |
| 地域看護学 | | 地域看護学概論 | 2 | | |
| | | 地域看護活動論Ⅰ | 1 | | |
| | | 地域看護活動論Ⅱ | 1 | | |
| | | 在宅看護活動論Ⅰ | 1 | | |
| | | 在宅看護活動論Ⅱ | 1 | | |
| 成人看護学 | | 成人看護学概論 | 2 | | |
| | | 成人看護活動論Ⅰ〔急性期〕 | 2 | | |
| | | 成人看護活動論Ⅱ〔慢性期〕 | 2 | | |
| 老年看護学 | | 老年看護学概論 | 2 | | |
| | | 老年看護活動論Ⅰ | 1 | | |
| | | 老年看護活動論Ⅱ | 1 | | |
| 小児看護学 | | 小児看護学概論 | 2 | | |
| | | 小児看護活動論Ⅰ | 1 | | |
| | | 小児看護活動論Ⅱ | 1 | | |
| 母性看護学 | | 母性看護学概論 | 2 | | |
| | | 母性看護活動論Ⅰ | 1 | | |
| | | 母性看護活動論Ⅱ | 1 | | |
| 精神看護学 | | 精神看護学概論 | 2 | | |
| | | 精神看護活動論Ⅰ | 1 | | |
| | | 精神看護活動論Ⅱ | 1 | | |
| 臨地実習 | | 基礎看護学実習Ⅰ | 1 | | |
| | | 基礎看護学実習Ⅱ | 2 | | |

| | | | | |
|------|--|---------------|---|---|
| | | 地域看護学実習 | 2 | |
| | | 成人看護学実習Ⅰ〔急性期〕 | 3 | |
| | | 成人看護学実習Ⅱ〔慢性期〕 | 3 | |
| | | 老年看護学実習 | 4 | |
| | | 小児看護学実習 | 2 | |
| | | 母性看護学実習 | 2 | |
| | | 精神看護学実習 | 2 | |
| | | 統合実習 | 2 | |
| 統合科目 | | 看護倫理 | 1 | |
| | | 看護マネジメント論 | | 1 |
| | | 看護教育学 | | 1 |
| | | 災害看護学・国際看護学 | 1 | |
| | | 看護情報学 | | 1 |
| | | 看護統合演習 | | 1 |
| | | 看護研究の基礎 | 1 | |
| | | 卒業研究 | 2 | |
| | | 公衆衛生看護学概論 | | 2 |
| | | 創成看護学活動論Ⅰ | 1 | |
| | | 創成看護学活動論Ⅱ | | 1 |
| | | 公衆衛生看護技術論 | | 2 |
| | | 公衆衛生看護技術論演習 | | 2 |
| | | 公衆衛生看護活動論Ⅰ | | 2 |
| | | 公衆衛生看護活動論Ⅱ | | 2 |
| | | 公衆衛生看護活動論Ⅲ | | 2 |
| | | 公衆衛生看護活動論Ⅳ | | 2 |
| | | 公衆衛生看護管理論 | | 2 |
| | | 公衆衛生看護学実習Ⅰ | | 2 |
| | | 公衆衛生看護学実習Ⅱ | | 3 |
| | | 助産学概論 | | 1 |
| | | リプロダクティブヘルス | | 1 |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------|--|---|--|--|
| | | 妊娠期・分娩期の診断とケア | | 1 | | |
| | | 産褥期・新生児期の診断とケア | | 1 | | |
| | | 助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期） | | 1 | | |
| | | 助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期） | | 1 | | |
| | | 助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥・新生児期） | | 2 | | |
| | | 助産過程演習 | | 2 | | |
| | | 地域・A国際母子保健学 | | 1 | | |
| | | 地域母子保健演習 | | 1 | | |
| | | 助産管理学 | | 1 | | |
| | | 助産学実習Ⅰ（妊娠） | | 2 | | |
| | | 助産学実習Ⅱ（分娩・産褥・新生児） | | 6 | | |
| | | 助産学実習Ⅲ（継続事例） | | 1 | | |
| | | 助産学実習Ⅳ（周産期ハイリスクケア） | | 1 | | |
| | | 助産学実習Ⅴ（地域母子保健） | | 1 | | |

(3) 社会福祉学科

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | |
|--------|--------------|------------|----|----|---|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 専門基礎分野 | 社会福祉原理系 | 社会福祉原論Ⅰ | 2 | | 必修 59単位を修得すること。 選択 47単位以上修得すること。 |
| | | 社会福祉原論Ⅱ | 2 | | |
| | | 社会福祉史論 | | 2 | |
| | 社会福祉制度・サービス系 | 社会保障論Ⅰ | 2 | | |
| | | 社会保障論Ⅱ | 2 | | |
| | | 社会福祉経営論 | 2 | | |
| | 社会福祉方法・援助系 | ソーシャルワーク論Ⅰ | 2 | | |
| | | ソーシャルワーク論Ⅱ | 2 | | |
| | | 介護福祉論 | | 2 | |

| | | | | | | |
|----------|--------------------------|------------------|------------------|--------------------|---|---|
| | | | 介護概論 | | 2 | |
| | 社会福祉基礎関 連系 | | 保健医療福祉連携論 | 1 | | |
| | | | 社会学概論 | 2 | | |
| | | | 家族社会学 | 2 | | |
| | | | 公衆衛生学 | 2 | | |
| | | | 臨床心理学 | 2 | | |
| | | | 栄養学 | | 2 | |
| | | | 感染微生物学 | 2 | | |
| | | | 生涯発達論 | | 2 | |
| | | | 法学（国際法を含む。） | | 2 | |
| | | | 人権と法 | | 2 | |
| | | | 地域との協働Ⅰ | 1 | | |
| | | | 地域との協働Ⅱ | 1 | | |
| | | | 地域との協働Ⅲ | | 2 | |
| 専門分 野 | 社会福 祉制 度・サー ビス系 | 社会福 祉共通 領域 | 地域福祉論Ⅰ | 2 | | |
| | | | 地域福祉論Ⅱ | 2 | | |
| | | | 障害者福祉論Ⅰ | 2 | | |
| | | | 障害者福祉論Ⅱ | | 2 | |
| | | | 権利擁護と成年後見 | 2 | | |
| | | | 更生保護 | | 2 | |
| | | | 医学概論 | | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク論Ⅲ | | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク論Ⅴ | | 2 | |
| | | | | | | |
| | 社会福 祉領域 | 社会福 祉領域 | 高齢者福祉論Ⅰ | 2 | | |
| | | | 高齢者福祉論Ⅱ | | 2 | |
| | | | 子ども家庭福祉論Ⅰ | 2 | | |
| | | | 子ども家庭福祉論Ⅱ | | 2 | |
| | | | 公的扶助論 | 2 | | |
| | | 精神保 健福祉 領域 | 精神保 健福祉 領域 | 精神医学と精神医療 | | 4 |
| | | | | 精神障害リハビリテーション 論 | | 2 |
| | | | | | | |

| | | | | | | |
|------------|----------|--------|---------------|-------------|---|---|
| | | | 精神保健福祉制度論 | | 2 | |
| 社会福祉相談・援助系 | 社会福祉共通領域 | 社会福祉 | ソーシャルワーク演習Ⅰ | 2 | | |
| | | 社会福祉共通 | 社会福祉調査 | 2 | | |
| | | | | 基本介護技術 | | 1 |
| | 社会福祉領域 | 社会福祉 | | 医療福祉論 | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク論Ⅳ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク論Ⅵ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅱ | 2 | |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅲ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅳ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅴ | | 2 |
| | 精神保健福祉領域 | | | 精神保健福祉の原理Ⅰ | | 2 |
| | | | | 精神保健福祉の原理Ⅱ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク論Ⅶ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク論Ⅷ | | 2 |
| | | | | 精神保健の課題と支援Ⅰ | | 2 |
| | | | | 精神保健の課題と支援Ⅱ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅵ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅶ | | 2 |
| | | | ソーシャルワーク演習Ⅷ | | 2 | |
| 社会福祉関連実習系 | 社会福祉領域 | | ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | 2 | | |
| | | | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | | 4 | |
| | | | ソーシャルワーク実習Ⅰ | 2 | | |
| | | | ソーシャルワーク実習Ⅱ | | 4 | |
| | 精神保健福祉領域 | | ソーシャルワーク実習指導Ⅲ | | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク実習指導Ⅳ | | 4 | |
| | | | ソーシャルワーク実習Ⅲ | | 5 | |
| | | 関連領域 | | 介護現場実習 | | 1 |
| 社会福祉関連・発展系 | | | 福祉環境論 | | 2 | |
| | | | ソーシャルインクルージョン | | 2 | |

| | | | | | |
|--|--|-----------------|---|---|--|
| | | 論 | | | |
| | | 重複障害・発達障害教育総論 | | 2 | |
| | | 重複障害・発達障害教育特論 | | 2 | |
| | | 子どもの権利 | | 2 | |
| | | 社会福祉教育論 | | 2 | |
| | | 社会福祉特論 | | 2 | |
| | | 生涯学習論 | | 2 | |
| | | 障害児教育学 | | 2 | |
| | | 障害児教育方法論 | | 2 | |
| | | 点字 | | 1 | |
| | | 実践手話 | | 1 | |
| | | 経済学概論 | | 2 | |
| | | 現代経済論（国際経済を含む。） | | 2 | |
| | | 国際関係論（国際政治を含む。） | | 2 | |
| | | 総合演習 | 4 | | |
| | | 卒業研究 | 4 | | |

(4) 社会保育学科

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | |
|--------|---------|---------|----|----|---------------------------|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 専門基礎分野 | 子どもの健康 | 感染微生物学 | 2 | | 必修、選択必修あわせて、106単位を修得すること。 |
| | | 公衆衛生学 | 2 | | |
| | | 医学概論 | 2 | | |
| | | 食生活論 | | 2 | |
| | 社会保育の理念 | 子どもの権利 | 2 | | |
| | | 人権と法 | | 2 | |
| | | 家族社会学 | 2 | | |
| | | 社会福祉概論 | 2 | | |
| | | 社会保育論 | 2 | | |
| 専門分 | 社会保 | 保育システム論 | 2 | | |

| | | | | |
|---|------------------|----------------|---|---|
| 野 | 育 | 保育経営論 | | 2 |
| | | 社会保育論演習 | | 2 |
| | | 保健医療福祉連携論 | 1 | |
| | 保育の 基礎理 論 | 保育原理 | 2 | |
| | | 教育原理 | 2 | |
| | | 教職概論（幼稚園） | 2 | |
| | | 子ども家庭福祉Ⅰ | 2 | |
| | | 子ども家庭福祉Ⅱ | | 2 |
| | | 子ども家庭支援論 | 2 | |
| | | 社会的養護Ⅰ | 2 | |
| | | 保育者論 | 2 | |
| | | 幼児教育史 | | 2 |
| | | 教育法概論 | 2 | |
| | | 生涯学習論 | | 2 |
| | 保育の 対象理 解 | 発達心理学 | 2 | |
| | | 子ども教育心理学 | 1 | |
| | | 子どもの保健 | 2 | |
| | | 子どもの食と栄養 | 2 | |
| | | 子ども家庭支援の社会・心理学 | 2 | |
| | 保育の 内容と 方法 | 保育指導論 | 2 | |
| | | 保育内容総論 | 1 | |
| | | 保育内容・言葉 | 2 | |
| | | 保育内容・人間関係 | 2 | |
| | | 保育内容・環境Ⅰ | 2 | |
| | | 保育内容・環境Ⅱ | | 1 |
| | | 保育内容・健康Ⅰ | 2 | |
| | | 保育内容・健康Ⅱ | | 1 |
| | | 保育内容・表現Ⅰ | 2 | |
| | | 保育内容・表現Ⅱ（音楽） | | 1 |
| | 保育内容・表現Ⅱ（造形） | | 1 | |

| | | | | |
|--------------------|--|-------------------|---|---|
| | | 保育内容・表現Ⅱ（言語） | | 1 |
| | | 乳児保育Ⅰ | 2 | |
| | | 乳児保育Ⅱ | 1 | |
| | | 就学児保育A（思春期の支援） | | 1 |
| | | 就学児保育B（学童保育） | | 1 |
| | | 病児・病後児保育 | 1 | |
| | | 子どもの健康と安全 | 1 | |
| | | 社会的養護Ⅱ | 1 | |
| | | 子育て支援 | 1 | |
| | | 子ども理解と教育相談 | 2 | |
| | | 児童文化演習 | | 2 |
| | | 自然保育実践演習 | 2 | |
| 保育の 教材研 究 | | 子どもと言葉 | | 1 |
| | | 子どもと環境 | | 1 |
| | | 子どもと音楽表現Ⅰ | 2 | |
| | | 子どもと音楽表現Ⅱ | | 2 |
| | | 保育者の音楽技能（ギター） | | 2 |
| | | 子どもと造形表現Ⅰ | 1 | |
| | | 子どもと造形表現Ⅱ | | 1 |
| | | 子どもと健康 | 1 | |
| | | 子どもと人間関係 | | 1 |
| | | 児童文化 | | 2 |
| 障がい 児の保 育・教育 | | 特別な教育的ニーズの理解とその支援 | 1 | |
| | | 障がい児福祉 | | 2 |
| | | 障害児支援の基礎理論 | 2 | |
| | | 知的障害者の心理・生理・病理 | | 2 |
| | | 肢体不自由者の心理・生理・病理 | | 2 |
| | | 病弱者の心理・生理・病理 | | 2 |
| | | 知的障害者教育課程論 | | 2 |
| | | 知的障害者教育方法論 | 2 | |

| | | | | | |
|--|-----------|---------------|---|---|--|
| | | 肢体不自由者教育課程論 | | 2 | |
| | | 肢体不自由者教育方法論 | | 2 | |
| | | 病弱者教育論 | | 2 | |
| | | 視覚障害者教育総論 | | 1 | |
| | | 聴覚障害者教育総論 | | 1 | |
| | | 重複障害・発達障害の評価 | 2 | | |
| | | 重複障害・発達障害の教育 | | 2 | |
| | | 障害児教育実習事前事後指導 | | 1 | |
| | | 障害児教育実習 | | 2 | |
| | 保育の 実践 | 保育指導論演習 | | 1 | |
| | | 家庭支援実践演習 | | 2 | |
| | | 地域との協働Ⅰ | 1 | | |
| | | 地域との協働Ⅱ | 1 | | |
| | | 地域との協働Ⅲ | | 2 | |
| | | 教育実習 | | 4 | |
| | | 教育実習指導 | | 1 | |
| | | 保育実習Ⅰ | | 4 | |
| | | 保育実習指導Ⅰ | | 2 | |
| | | 保育実習Ⅱ | | 2 | |
| | | 保育実習指導Ⅱ | | 1 | |
| | | 保育実習Ⅲ | | 2 | |
| | | 保育実習指導Ⅲ | | 1 | |
| | 専門研 究 | 専門演習Ⅰ | 1 | | |
| | | 専門演習Ⅱ | 1 | | |
| | | 卒業研究 | 4 | | |
| | | 教職・保育実践演習 | 2 | | |

別表第2（第34条関係）

1 教員免許取得に係る科目

(1) 栄養教諭免許状一種関係（栄養学科）

| 第一欄 | 栄養に係る教 育及び教職に | 左項の各科目に含める ことが必要な事項 | 必要単 位数 | 科目名 | 単位数 |
|-----|------------------|------------------------|-----------|-----|-----|
|-----|------------------|------------------------|-----------|-----|-----|

| | | | | | |
|-----|------------------------------------|---|---|---------------------|---|
| | 関する科目 | | | | |
| 第二欄 | 栄養に係る教育に関する科目 | | 4 | 栄養教諭論 | 2 |
| | | | | 食生活・食文化論 | 2 |
| | | | | 食教育指導論 | 2 |
| 第三欄 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 8 | 教育原理 | 2 |
| | | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | 教職概論 | 2 |
| | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | | 教育法概論 | 2 |
| | | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | 教育心理学 | 2 |
| | | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | 特別支援教育の基礎 | 2 |
| | | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | 教育課程論 | 2 |
| 第四欄 | 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容 | 6 | 道徳教育論 | 2 |
| | | | | 特別活動論 | 1 |
| | | | | 総合的な探究の時間の指導法 | 1 |
| | | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用 | | 教育方法・技術論（ICT活用の理論と実 | 2 |

| | | | | | |
|-----|------------|------------------------------------|---|--------------|---|
| | | を含む。) | | 践を含む) | |
| | | 生徒指導の理論及び方法 | | 生徒指導論 | 1 |
| | | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理解及び方法 | | 学校カウンセリング | 2 |
| 第五欄 | 教育実践に関する科目 | 栄養教育実習 | 2 | 栄養教育実習事前事後指導 | 1 |
| | | | | 栄養教育実習 | 2 |
| | | 教職実践演習 | 2 | 教職実践演習（栄養教諭） | 2 |

(2) 高等学校教諭（公民・福祉）免許状一種関係（社会福祉学科）

| 第一欄 | 教科及び教職に関する科目 | 左項の各科目に含めることが必要な事項 | 必要単位数 | 科目名 | 単位数 | |
|-----|------------------|--------------------|-------|-----------------|-----|----|
| | | | | | 公民 | 福祉 |
| 第二欄 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 教科に関する専門的事項 | 24 | 法学（国際法を含む。） | 2 | |
| | | | | 国際関係論（国際政治を含む。） | 2 | |
| | | | | 人権と法 | 2 | |
| | | | | 社会学概論 | 2 | |
| | | | | 家族社会学 | 2 | |
| | | | | 経済学概論 | 2 | |
| | | | | 現代経済論（国際経済を含む。） | 2 | |
| | | | | 哲学 | 2 | |
| | | | | 倫理学 | 2 | |
| | | | | 心理学 | 2 | |
| | | | | 生命倫理 | 2 | |
| | | | | 社会福祉学（職業指導を含む。） | | 2 |
| | | 2 | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|---|--|-------------|---|---|
| | | | | 社会保障論Ⅰ | | 2 |
| | | | | 社会保障論Ⅱ | | 2 |
| | | | | 社会福祉教育論 | | 2 |
| | | 高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉 | | 高齢者福祉論Ⅰ | | 2 |
| | | | | 障害者福祉論Ⅰ | | 2 |
| | | | | 子ども家庭福祉論Ⅰ | | 2 |
| | | 社会福祉援助技術 | | ソーシャルワーク論Ⅲ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク論Ⅴ | | 2 |
| | | | | 地域福祉論Ⅰ | | 2 |
| | | | | 地域福祉論Ⅱ | | 2 |
| | | 介護理論及び介護技術 | | 介護概論 | | 2 |
| | | | | 基本介護技術 | | 1 |
| | | 社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。） | | 介護現場実習 | | 1 |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅰ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク演習Ⅱ | | 2 |
| | | | | ソーシャルワーク実習Ⅰ | | 2 |
| | | 人体構造及び日常生活行動に関する理解 | | 医学概論 | | 2 |
| | | 加齢及び障害に関する理解 | | 介護福祉論 | | 2 |
| | | | | 障害者福祉論Ⅱ | | 2 |
| | | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） | | 公民科指導法Ⅰ | 2 | |
| | | | | 公民科指導法Ⅱ | 2 | |
| | | | | 福祉科教育法Ⅰ | | 2 |
| | | | | 福祉科教育法Ⅱ | | 2 |

| | | | | | |
|-----|------------------------------------|---|---|------------------|---|
| 第三欄 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 8 | 教育原理 | 2 |
| | | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | 教職概論 | 2 |
| | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | | 教育法概論 | 2 |
| | | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | 教育心理学 | 2 |
| | | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | 特別支援教育の基礎 | 2 |
| | | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | 教育課程論 | 2 |
| 第四欄 | 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 総合的な探究の時間の指導法 | 8 | 総合的な探究の時間の指導法 | 1 |
| | | 特別活動の指導法 | | 特別活動論 | 1 |
| | | 教育の方法及び技術 | | 教育方法・技術論 | 2 |
| | | 情報通信技術を活用した教育の理論と方法 | | （ICT活用の理論と実践を含む） | |
| | | 生徒指導の理論及び方法 | | 生徒指導論 | 1 |
| | | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な | | 学校カウンセリング | 2 |

| | | | | | |
|-----|------------------|-------------------------|----|------------------|---|
| | | 知識を含む。) の理解 及び方法 | | | |
| | | 進路指導及びキャリア 教育の理論及び方法 | | 進路指導及びキ ャリア教育 | 1 |
| 第五欄 | 教育実践に関 する科目 | 教育実習 | 3 | 教育実習事前事後 指導 | 1 |
| | | | | 教育実習 | 2 |
| | | 教職実践演習 | 2 | 教職実践演習（高 校） | 2 |
| 第六欄 | 大学が独自に 設定する科目 | | 12 | 教育学 | 2 |
| | | | | 生涯学習論 | 2 |
| | | | | 道徳教育論 | 2 |
| | | | | 地域社会論 | 2 |
| | | | | ジェンダー論 | 2 |
| | | | | 文化人類学 | 2 |

(3) 幼稚園教諭免許状一種関係 (社会保育学科)

| 第一欄 | 教科及び教職 に関する科目 | 左項の各科目に含める ことが必要な事項 | 必要単 位数 | 科目名 | 単位数 |
|-----|----------------------------|------------------------|-----------|-----------------------------------|-----|
| 第二欄 | 領域及び保育 内容の指導法 に関する科目 | 領域に関する専門的事 項 | 16 | 子どもと言葉 | 1 |
| | | | | 子どもと環境 | 1 |
| | | | | 子どもと音楽表現Ⅰ | 2 |
| | | | | 子どもと音楽表現Ⅱ | 2 |
| | | | | 子どもと造形表現Ⅰ | 1 |
| | | | | 子どもと造形表現Ⅱ | 1 |
| | | | | 子どもと健康 | 1 |
| | | | | 子どもと人間関係 | 1 |
| | | | | 保育内容・人間関係 | 2 |
| | | | | 保育内容・環境Ⅰ | 2 |
| | | | | 保育内容・環境Ⅱ | 1 |
| | | | | 保育内容・健康Ⅰ | 2 |
| | | | | 保育内容・健康Ⅱ | 1 |
| | | | | 保育内容の指導法（情報 機器及び教材の活用を 含む。） | |

| | | | | | |
|-----|----------------|---|----|-------------------|---|
| | | | | 保育内容・言葉 | 2 |
| | | | | 保育内容・表現Ⅰ | 2 |
| | | | | 保育内容・表現Ⅱ（音楽） | 1 |
| | | | | 保育内容・表現Ⅱ（造形） | 1 |
| | | | | 保育内容・表現Ⅱ（言語） | 1 |
| 第三欄 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 10 | 教育原理 | 2 |
| | | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への内容を含む。） | | 幼児教育史 | 2 |
| | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | | 教職概論（幼稚園） | 2 |
| | | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | 教育法概論 | 2 |
| | | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | 子ども教育心理学 | 1 |
| | | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | 発達心理学 | 2 |
| | | | | 特別な教育的ニーズの理解とその支援 | 1 |
| | 保育内容総論 | 1 | | | |
| 第四欄 | 道徳、総合的な時間等の指 | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用 | 4 | 保育指導論 | 2 |
| | | | | 保育指導論演習 | 1 |

| | | | | | |
|-----|----------------------|--|----|------------|---|
| | 導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | を含む。) 幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理解及び方法 | | 子ども理解と教育相談 | 2 |
| 第五欄 | 教育実践に関する科目 | 教育実習 | 5 | 教育実習指導 | 1 |
| | | | | 教育実習 | 4 |
| | | 教職実践演習 | 2 | 教職・保育実践演習 | 2 |
| 第六欄 | 大学が独自に設定する科目 | | 14 | 生涯学習論 | 2 |
| | | | | 児童文化 | 2 |
| | | | | 児童文化演習 | 2 |

(4) 特別支援学校教諭免許状一種関係 (社会福祉学科)

| 教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める科目区分 | 単位数 | 科目名 | 単位数 | 中心となる領域(含む領域) |
|------------------------------------|-----|---------------|-----|---------------|
| 特別支援教育の基礎理論に関する科目 | 2 | 障害児教育学 | 2 | |
| 特別支援教育領域に関する科目 | 16 | 知的障害心理・生理・病理 | 2 | 知的障害者 |
| | | 肢体不自由心理・生理・病理 | 2 | 肢体不自由者 |
| | | 病弱心理・生理・病理 | 2 | 病弱者 |
| | | 障害児教育課程論 | 2 | 知的障害者 |
| | | 障害児教育方法論 | 2 | 知的障害者 |
| | | 肢体不自由者教育課程論 | 2 | 肢体不自由者 |
| | | 肢体不自由教育演習 | 2 | 肢体不自由者 |
| | | 病弱教育学 | 2 | 病弱者 |
| 免許状に | 5 | 視覚障害教育総論 | 1 | 視覚障害者 |

| | | | | | |
|-------------------------------|--|---|---------------|---|--------|
| 定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 | 幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 | | 聴覚障害教育総論 | 1 | 聴覚障害者 |
| | | | 重複障害・発達障害教育総論 | 2 | 発達（重複） |
| | | | 重複障害・発達障害教育特論 | 2 | 発達（重複） |
| 心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習 | | 3 | 障害児教育実習事前事後指導 | 1 | |
| | | | 障害児教育実習 | 2 | |

(5) 特別支援学校教諭免許状一種関係（社会保育学科）

| 教育職員免許法施行規則に定める科目区分 | 単位数 | 科目名 | 単位数 | 中心となる領域（含む領域） |
|--|-----|-----------------|-----|---------------|
| 特別支援教育の基礎理論に関する科目 | 2 | 障害児支援の基礎理論 | 2 | |
| 特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 | 16 | 知的障害者の心理・生理・病理 | 2 | 知的障害者 |
| | | 肢体不自由者の心理・生理・病理 | 2 | 肢体不自由者 |
| | | 病弱者の心理・生理・病理 | 2 | 病弱者 |
| | | 知的障害者教育課程論 | 2 | 知的障害者 |
| | | 知的障害者教育方法論 | 2 | 知的障害者 |
| | | 肢体不自由者教育課程論 | 2 | 肢体不自由者 |
| | | 肢体不自由者教育方法論 | 2 | 肢体不自由者 |
| | | 病弱者教育論 | 2 | 病弱者 |
| 免許状に | 5 | 重複障害・発達障害の | 2 | 重複・LD等領 |

| | | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|---|---------------|---|----------|
| 定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 | 幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 | | 評価 | | 域 |
| | 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 | | 重複障害・発達障害の教育 | 2 | 重複・LD等領域 |
| | 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 | | 視覚障害者教育総論 | 1 | 視覚障害者 |
| | 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 | | 聴覚障害者教育総論 | 1 | 聴覚障害者 |
| 心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習 | | 3 | 障害児教育実習事前事後指導 | 1 | |
| | | | 障害児教育実習 | 2 | |

別表第3（第51条関係）

管理栄養士学校指定規則（昭和41年文部省・厚生省令第2号）による必修科目及び単位数対照表

| 教育内容 | 単位数 | | 本学での科目 | 単位数 | |
|--------|--------|--------|--------------------------|-------------|--------|
| | 講義又は演習 | 実験又は実習 | | 講義又は演習 | 実験又は実習 |
| 専門基礎分野 | 6 | 10 | 公衆衛生学 社会福祉概論 健康管理論 | 2 2 2 | |

| | | | | | | |
|----------|---------------------------|---------|----|---------|----|----|
| | | | | 公衆衛生学実習 | | 1 |
| | | | | 健康管理論実習 | | 1 |
| | 人体の構造と機能 及び疾病の成り立 ち | 14 | | 解剖学 | 2 | |
| | | | | 生理学 | 2 | |
| | | | | 生化学Ⅰ | 2 | |
| | | | | 生化学Ⅱ | 2 | |
| | | | | 病理学 | 2 | |
| | | | | 感染微生物学 | 2 | |
| | | | | 臨床医学 | 2 | |
| | | | | 解剖生理学実験 | | 1 |
| | | | | 生化学実験Ⅰ | | 1 |
| | | | | 生化学実験Ⅱ | | 1 |
| | 食べ物と健康 | 8 | | 食品学総論 | 2 | |
| | | | | 食品学各論 | 2 | |
| | | | | 食品衛生学 | 2 | |
| | | | | 調理学 | 2 | |
| | | | | 食品学実験Ⅰ | | 1 |
| | | | | 食品学実験Ⅱ | | 1 |
| | | | | 食品衛生学実験 | | 1 |
| | | | | 基礎調理学実習 | | 1 |
| | | | | 応用調理学実習 | | 1 |
| | 小計 | 28 | 10 | 小計 | 28 | 10 |
| 専門分 野 | 基礎栄養学 | 2 | 8 | 基礎栄養学 | 2 | |
| | | | | 基礎栄養学実験 | | 1 |
| | 応用栄養学 | 6 | | 応用栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | | 応用栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | | 応用栄養学Ⅲ | 2 | |
| | | | | 応用栄養学実習 | | 1 |
| | 栄養教育論 | 6 | | 栄養教育総論 | 2 | |
| | | 栄養教育各論Ⅰ | 2 | | | |

| | | | | | | |
|----|---------|----|----|------------|----|----|
| | | | | 栄養教育各論Ⅱ | 2 | |
| | | | | 栄養教育各論実習 | | 1 |
| | 臨床栄養学 | 8 | | 臨床栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | | 臨床栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | | 臨床栄養学Ⅲ | 2 | |
| | | | | 臨床栄養学Ⅳ | 2 | |
| | | | | 臨床栄養学実習Ⅰ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養学実習Ⅱ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養学実習Ⅲ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養学実習Ⅳ | | 1 |
| | 公衆栄養学 | 4 | | 公衆栄養学Ⅰ | 2 | |
| | | | | 公衆栄養学Ⅱ | 2 | |
| | | | | 公衆栄養学実習 | | 1 |
| | 給食経営管理論 | 4 | | 給食経営管理論Ⅰ | 2 | |
| | | | | 給食経営管理論Ⅱ | 2 | |
| | | | | 給食経営管理論実習Ⅰ | | 1 |
| | 総合演習 | 2 | | 総合演習Ⅰ | 1 | |
| | | | | 総合演習Ⅱ | 2 | |
| | 臨地実習 | | 4 | 給食経営管理論実習Ⅱ | | 1 |
| | | | | 臨床栄養学臨地実習Ⅰ | | 2 |
| | | | | 公衆栄養学臨地実習 | | 1 |
| | 小計 | 32 | 12 | 小計 | 33 | 13 |
| 合計 | | 60 | 22 | 合計 | 61 | 23 |
| | | 82 | | | | 84 |

別表第4（第51条関係）

食品衛生法施行規則（昭和23年厚生省令第23号。以下「施行規則」という。）による
必修科目及び選択科目対照表

科目A（施行規則で定める必修科目）

| 施行規則における学科 | 科目 | 本学で開講される科目 | 単位数 | | 履修の方法 |
|------------|-------|------------|-----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 化学 | 無機化学 | 化学 | | 2 | 化学、生物化学、微生物学、公衆衛生学の各学科から、それぞれ1科目以上を履修し、科目Aから22単位以上を修得すること。 |
| | 有機化学 | 食品有機化学 | | 2 | |
| 生物化学 | 生物化学 | 生化学実験Ⅰ | 1 | | |
| | | 生化学実験Ⅱ | 1 | | |
| | | 生化学Ⅰ | 2 | | |
| | | 生化学Ⅱ | 2 | | |
| | 食品化学 | 食品学総論 | 2 | | |
| | 生理学 | 生理学 | 2 | | |
| | 食品分析学 | 食品学実験Ⅰ | 1 | | |
| | | 食品学実験Ⅱ | 1 | | |
| 微生物学 | 微生物学 | 感染微生物学 | 2 | | |
| | 食品製造学 | 食品の保存と製造 | | 2 | |
| 公衆衛生学 | 公衆衛生学 | 公衆衛生学 | 2 | | |
| | | 公衆衛生学実習 | 1 | | |
| | 食品衛生学 | 食品衛生学 | 2 | | |
| | | 食品衛生学実験 | 1 | | |

科目B（施行規則で定める選択科目）

| 本学で開講される科目 | 施行規則で定める選択科目 | 単位数 | | 履修の方法 |
|------------|---------------|-----|----|-----------------------------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 食品学各論 | 水産化学、畜産科学、乳化学 | 2 | | 科目Aから修得した単位とあわせて、合計40単位以上を修得すること。 |
| 給食経営管理論Ⅰ | 衛生管理学 | 2 | | |
| 健康管理論 | 環境保健学 | 2 | | |
| 健康管理論実習 | 環境保健学 | 1 | | |
| 病理学 | 病理学 | 2 | | |
| 解剖学 | 解剖学 | 2 | | |

| | | | | |
|---------|-------|---|---|--|
| 解剖生理学実験 | 解剖学 | 1 | | |
| 基礎栄養学 | 栄養化学 | 2 | | |
| 基礎栄養学実験 | 栄養化学 | 1 | | |
| 応用栄養学Ⅰ | 栄養学 | 2 | | |
| 応用栄養学Ⅱ | 栄養学 | 2 | | |
| 栄養教育総論 | 栄養学 | 2 | | |
| 臨床栄養学Ⅰ | 栄養学 | 2 | | |
| 公衆栄養学Ⅰ | 栄養学 | 2 | | |
| 統計学 | 衛生統計学 | | 2 | |

別表第5（第51条関係）

児童福祉法施行規則第6条の2の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法（平成13年厚生労働省告示第198号。以下「告示」という。）に定める教養科目及び単位数対照表

| 告示による教科目 | | | | 本学における教科の開設状況等 | | | | |
|----------|-----|------|---------|----------------|------|-----|----|---|
| 系列 | 教科目 | 授業形態 | 単位数 | 本学での科目 | 授業形態 | 単位数 | | |
| | | | | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 教養科目 | 外国語 | 演習 | 2以上 | 英語Ⅰ | 演習 | 1 | | 1 |
| | | | | 英語Ⅱ | 演習 | 1 | | 1 |
| | | | | 英語Ⅲ | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 英語Ⅳ | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅰ | 演習 | 1 | | 1 |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅱ | 演習 | 1 | | 1 |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅲ | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 入門ハングル | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 入門ドイツ語 | 演習 | | 1 | 1 |
| | 体育 | 講義 | 1 | スポーツ理論 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 実技 | 1 | スポーツ実技Ⅰ | 実技 | | 1 | 1 | |
| スポーツ実技Ⅱ | | | 実技 | | 1 | 1 | | |

| | | | | | | |
|-----------------------|--------|--------|----|----|---|----|
| 外国語、体育 以外の科目 | 6以上 | 基礎演習 | 演習 | 1 | | 1 |
| | | 専門基礎演習 | 演習 | 1 | | 1 |
| | | 情報処理Ⅰ | 演習 | 1 | | 1 |
| | | 情報処理Ⅱ | 演習 | 1 | | 1 |
| | | 日本国憲法 | 講義 | 2 | | 2 |
| 合計 | 10単位以上 | 合計 | | 12 | 7 | 19 |
| 体育は実技分野から1単位以上履修すること。 | | | | | | |

告示別表第1に定める必修科目及び単位数対照表

| 告示別表第1による教科目 | | | | 本学における教科の開設状況等 | | | | |
|----------------|-------------|------|-----|----------------|------|-----|----|---|
| 系列 | 教科目 | 授業形態 | 単位数 | 本学での科目 | 授業形態 | 単位数 | | |
| | | | | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 保育の本質・目的に関する科目 | 保育原理 | 講義 | 2 | 保育原理 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 教育原理 | 講義 | 2 | 教育原理 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 子ども家庭福祉 | 講義 | 2 | 子ども家庭福祉Ⅰ | 講義 | 2 | | 2 |
| | 社会福祉 | 講義 | 2 | 社会福祉概論 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 子ども家庭支援論 | 講義 | 2 | 子ども家庭支援論 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 社会的養護Ⅰ | 講義 | 2 | 社会的養護Ⅰ | 講義 | 2 | | 2 |
| | 保育者論 | 講義 | 2 | 保育者論 | 講義 | 2 | | 2 |
| 保育の対象の理解に関する科目 | 保育の心理学 | 講義 | 2 | 発達心理学 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 子どもの理解と援助 | 演習 | 1 | 子ども教育心理学 | 演習 | 1 | | 1 |
| | 子ども家庭支援の心理学 | 講義 | 2 | 子ども家庭支援の社会・心理学 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 子どもの保健 | 講義 | 2 | 子どもの保健 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 子どもの食 | 演習 | 2 | 子どもの食と栄養 | 演習 | 2 | | 2 |

| | | | | | | | | |
|----------------------------|------------|------|----------|-------------------|----|----|---|----|
| | と栄養 | | | | | | | |
| 保育の内容・方法に関する科目 | 保育の計画と評価 | 講義 | 2 | 保育指導論 | 講義 | 2 | | 2 |
| | 保育内容総論 | 演習 | 1 | 保育内容総論 | 演習 | 1 | | 1 |
| | 保育内容演習 | 演習 | 5 | 保育内容・言葉 | 演習 | 2 | | 2 |
| | | | | 保育内容・人間関係 | 演習 | 2 | | 2 |
| | | | | 保育内容・環境 I | 演習 | 2 | | 2 |
| | | | | 保育内容・健康 I | 演習 | 2 | | 2 |
| | | | | 保育内容・表現 I | 演習 | 2 | | 2 |
| | | | | 保育指導論演習 | 演習 | 1 | | 1 |
| | 保育内容の理解と方法 | 演習 | 4 | 子どもと音楽表現 I | 演習 | 2 | | 2 |
| | | | | 子どもと造形表現 I | 演習 | 1 | | 1 |
| | | | | 子どもと健康 | 演習 | 1 | | 1 |
| | 乳児保育 I | 講義 | 2 | 乳児保育 I | 講義 | 2 | | 2 |
| | 乳児保育 II | 演習 | 1 | 乳児保育 II | 演習 | 1 | | 1 |
| | 子どもの健康と安全 | 演習 | 1 | 子どもの健康と安全 | 演習 | 1 | | 1 |
| | 障害児保育 | 演習 | 2 | 特別な教育的ニーズの理解とその支援 | 演習 | 1 | | 1 |
| 重複障害・発達障害の評価 | | | | 演習 | 2 | | 2 | |
| 社会的養護 II | 演習 | 1 | 社会的養護 II | 演習 | 1 | | 1 | |
| 子育て支援 | 演習 | 1 | 子育て支援 | 演習 | 1 | | 1 | |
| 保育実習 | 保育実習 I | 実習 | 4 | 保育実習 I | 実習 | | 4 | 4 |
| | 保育実習指導 I | 演習 | 2 | 保育実習指導 I | 演習 | | 2 | 2 |
| 総合演習 | 保育実践演習 | 演習 | 2 | 教職・保育実践演習 | 演習 | 2 | | 2 |
| 合計 | | 51単位 | | 合計 | | 52 | 6 | 58 |
| 保育実習 I 及び保育実習指導 I を履修すること。 | | | | | | | | |

告示別表第2に定める選択必修科目及び単位数対照表

| 告示別表第2による教科目 | | | | 本学における教科の開設状況等 | | | | |
|----------------|----------------------|----|-----|----------------|------|-----|----|---|
| 系列 | | | | 本学での科目 | 授業形態 | 単位数 | | |
| | | | | | | 必修 | 選択 | 計 |
| 保育の本質・目的に関する科目 | | | | 子ども家庭福祉Ⅱ | 演習 | | 2 | 2 |
| | | | | 社会保育論 | 講義 | 2 | | 2 |
| 保育の対象の理解に関する科目 | | | | 食生活論 | 講義 | | 2 | 2 |
| | | | | 家族社会学 | 講義 | 2 | | 2 |
| | | | | 家庭支援実践演習 | 演習 | | 2 | 2 |
| 保育の内容・方法に関する科目 | | | | 子どもと人間関係 | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 保育内容・環境Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 保育内容・健康Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 保育内容・表現Ⅱ（音楽） | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 保育内容・表現Ⅱ（造形） | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 保育内容・表現Ⅱ（言語） | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 病児・病後児保育 | 演習 | 1 | | 1 |
| | | | | 就学児保育A（思春期の支援） | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 就学児保育B（学童保育） | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 児童文化演習 | 演習 | | 2 | 2 |
| | | | | 子どもと音楽表現Ⅱ | 演習 | | 2 | 2 |
| | | | | 保育者の音楽技能（ギター） | 演習 | | 2 | 2 |
| | | | | 子どもと造形表現Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 |
| 保育実習 | 保育実習Ⅱ 又は保育実習Ⅲ | 実習 | 2以上 | 保育実習Ⅱ | 実習 | | 2 | 2 |
| | | | | 保育実習Ⅲ | 実習 | | 2 | 2 |
| | 保育実習指導Ⅱ 又は保育実習指導Ⅲ | 演習 | 1以上 | 保育実習指導Ⅱ | 演習 | | 1 | 1 |
| | | | | 保育実習指導Ⅲ | 演習 | | 1 | 1 |

| | | | | |
|--|--|---|----|----|
| 合計 | | 5 | 27 | 32 |
| 上記から合計18単位以上履修し、うち保育実習の領域から保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲから2単位以上、保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲから1単位以上をそれぞれ履修すること。 | | | | |

別表第6（第51条関係）

社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則（昭和62年厚生省令第50号）に定める必修科目及び単位数対照表

| 必修科目名 | 時間数 | | 本学での科目名 | 単位数 | |
|-----------------|--------|----|------------|--------|----|
| | 講義又は演習 | 実習 | | 講義又は演習 | 実習 |
| 医学概論 | 30 | | 医学概論 | 2 | |
| 心理学と心理的支援 | 30 | | 心理学 | 2 | |
| 社会学と社会システム | 30 | | 社会学概論 | 2 | |
| 社会福祉の原理と政策 | 60 | | 社会福祉原論Ⅰ | 2 | |
| | | | 社会福祉原論Ⅱ | 2 | |
| 地域福祉と包括的支援体制 | 60 | | 地域福祉論Ⅰ | 2 | |
| | | | 地域福祉論Ⅱ | 2 | |
| 権利擁護を支える法制度 | 30 | | 権利擁護と成年後見 | 2 | |
| 社会保障 | 60 | | 社会保障論Ⅰ | 2 | |
| | | | 社会保障論Ⅱ | 2 | |
| 障害者福祉 | 30 | | 障害者福祉論Ⅰ | 2 | |
| 社会福祉調査の基礎 | 30 | | 社会福祉調査 | 2 | |
| 刑事司法と福祉 | 30 | | 更生保護 | 2 | |
| 福祉サービスの組織と経営 | 30 | | 社会福祉経営論 | 2 | |
| 高齢者福祉 | 30 | | 高齢者福祉論Ⅰ | 2 | |
| 児童・家庭福祉 | 30 | | 子ども家庭福祉論Ⅰ | 2 | |
| 貧困に対する福祉 | 30 | | 公的扶助論 | 2 | |
| 保健医療と福祉 | 30 | | 医療福祉論 | 2 | |
| ソーシャルワークの基盤と専門職 | 30 | | ソーシャルワーク論Ⅰ | 2 | |
| ソーシャルワークの理論と | 60 | | ソーシャルワーク論Ⅲ | 2 | |

| | | | | | |
|-------------------------|-----|--|-------------------|---|---|
| 方法 | | | ソーシャルワーク論Ⅴ | 2 | |
| ソーシャルワークの基盤と 専門職（専門） | 30 | | ソーシャルワーク論Ⅱ | 2 | |
| ソーシャルワークの理論と 方法（専門） | 60 | | ソーシャルワーク論Ⅳ | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク論Ⅵ | 2 | |
| ソーシャルワーク演習 | 30 | | ソーシャルワーク演習 Ⅰ | 2 | |
| ソーシャルワーク演習（専 門） | 120 | | ソーシャルワーク演習 Ⅱ | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク演習 Ⅲ | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク演習 Ⅳ | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク演習 Ⅴ | 2 | |
| ソーシャルワーク実習指導 | 90 | | ソーシャルワーク実習 指導Ⅰ | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク実習 指導Ⅱ | 4 | |
| ソーシャルワーク実習 | 240 | | ソーシャルワーク実習 Ⅰ | | 2 |
| | | | ソーシャルワーク実習 Ⅱ | | 4 |

別表第7（第51条関係）

精神保健福祉士短期養成施設等及び精神保健福祉士一般養成施設等指定規則（平成10年厚生省令第12号）に定める必修科目及び単位数対照表

| 必修科目名 | 時間数 | | 本学での科目名 講義又は演習 | 単位数 | |
|-----------|------------|----|-------------------|------------|----|
| | 講義又 は演習 | 実習 | | 講義又 は演習 | 実習 |
| 医学概論 | 30 | | 医学概論 | 2 | |
| 心理学と心理的支援 | 30 | | 心理学 | 2 | |

| | | | | | |
|--------------------|----|--|----------------|---|--|
| 社会学と社会システム | 30 | | 社会学概論 | 2 | |
| 社会福祉の原理と政策 | 60 | | 社会福祉原論Ⅰ | 2 | |
| | | | 社会福祉原論Ⅱ | 2 | |
| 地域福祉と包括的支援体制 | 60 | | 地域福祉論Ⅰ | 2 | |
| | | | 地域福祉論Ⅱ | 2 | |
| 権利擁護を支える法制度 | 30 | | 権利擁護と成年後見 | 2 | |
| 社会保障 | 60 | | 社会保障論Ⅰ | 2 | |
| | | | 社会保障論Ⅱ | 2 | |
| 障害者福祉 | 30 | | 障害者福祉論Ⅰ | 2 | |
| 社会福祉調査の基礎 | 30 | | 社会福祉調査 | 2 | |
| 刑事司法と福祉 | 30 | | 更生保護 | 2 | |
| 精神医学と精神医療 | 60 | | 精神医学と精神医療 | 4 | |
| 現代の精神保健の課題と支援 | 60 | | 精神保健の課題と支援Ⅰ | 2 | |
| | | | 精神保健の課題と支援Ⅱ | 2 | |
| 精神保健福祉の原理 | 60 | | 精神保健福祉の原理Ⅰ | 2 | |
| | | | 精神保健福祉の原理Ⅱ | 2 | |
| 精神障害リハビリテーション論 | 30 | | 精神障害リハビリテーション論 | 2 | |
| 精神保健福祉制度論 | 30 | | 精神保健福祉制度論 | 2 | |
| ソーシャルワークの基盤と専門職 | 30 | | ソーシャルワーク論Ⅰ | 2 | |
| ソーシャルワークの理論と方法 | 60 | | ソーシャルワーク論Ⅲ | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク論Ⅴ | 2 | |
| ソーシャルワークの理論と方法（専門） | 60 | | ソーシャルワーク論Ⅶ | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク論Ⅷ | 2 | |
| ソーシャルワーク演習 | 30 | | ソーシャルワーク演習Ⅰ | 2 | |
| ソーシャルワーク演習（専門） | 90 | | ソーシャルワーク演習Ⅵ | 2 | |

| | | | | | |
|--------------|-----|--|----------------------|---|---|
| | | | ソーシャルワーク演習 VII | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク演習 VIII | 2 | |
| ソーシャルワーク実習指導 | 90 | | ソーシャルワーク実習 指導 III | 2 | |
| | | | ソーシャルワーク実習 指導 IV | 4 | |
| ソーシャルワーク実習 | 210 | | ソーシャルワーク実習 III | | 5 |

別表第 8（第51条関係）

令和 3 年 4 月 1 日の前日において本学の学生であったもの及び令和 3 年度又は令和 4 年度において社会福祉学科の 3 年次に編入学を許可された学生の社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則（昭和62年厚生省令第50号）に定める必修科目の読替表

| 令和 2 年度以前入学生及び令和 3 年度又は令和 4 年度編入学生必修科目 | | | 令和 3 年度以降入学生 必修科目 における読替 | |
|--|--------------|------------------------------|-----------------------------|---------------------|
| 指定科目名 | 本学設置科目名 | 備考 | 本学設置科目名 | 備考 |
| 人体の構造と機能及び疾病 | 医療概論 | | 医学概論 | |
| 心理学と心理的支援 | 心理学 | | 心理学 | |
| 社会理論と社会システム | 社会学概論 | | 社会学概論 | |
| 現代社会と福祉 | 社会福祉原論 | | 社会福祉原論 I | 両科目の単 位修得が必 要 |
| | | | 社会福祉原論 II | |
| 社会調査の基礎 | 社会福祉調査 | | 社会福祉調査 | |
| 相談援助の基盤と専門職 | ソーシャルワーク論 I | いずれか 又は両方 の単位が ない場合 | ソーシャルワーク論 I | 両科目の単 位修得が必 要 |
| | ソーシャルワーク論 II | | ソーシャルワーク論 II | |
| 相談援助の理論と方 | ソーシャルワー | いずれか | ソーシャルワーク論 | 全ての科目 |

| | | | | |
|---------------------|------------|------------------|------------------|---------------|
| 法 | ク論Ⅲ | 又は全ての単位がない場合 | Ⅲ | の単位修得が必要 |
| | ソーシャルワーク論Ⅳ | | ソーシャルワーク論Ⅴ | |
| | ソーシャルワーク論Ⅴ | | ソーシャルワーク論Ⅳ | |
| | ソーシャルワーク論Ⅵ | | ソーシャルワーク論Ⅵ | |
| 地域福祉の理論と方法 | 地域福祉論Ⅰ | いずれか又は両方の単位がない場合 | 地域福祉論Ⅰ | 両科目の単位修得が必要 |
| | 地域福祉論Ⅱ | | 地域福祉論Ⅱ | |
| 福祉行財政と福祉計画 | 社会福祉行財政論 | いずれか又は両方の単位がない場合 | 社会福祉原論Ⅰ | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | 福祉計画論 | | 社会福祉原論Ⅱ | |
| | | | 地域福祉論Ⅰ | |
| | | | 地域福祉論Ⅱ | |
| | | | 社会保障論Ⅰ | |
| 社会保障論Ⅱ | | | | |
| 社会保障 | 社会保障論 | | 社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ | 両科目の単位修得が必要 |
| 高齢者に対する支援と介護保険制度 | 高齢者福祉論Ⅰ | いずれか又は両方の単位がない場合 | 高齢者福祉論Ⅰ | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | 高齢者福祉論Ⅱ | | 高齢者福祉論Ⅱ（指定科目外） | |
| | | | 医療福祉論 | |
| 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 | 障害者福祉論Ⅰ | いずれか又は両方の単位がない場合 | 障害者福祉論Ⅰ | 両科目の単位修得が必要 |
| | 障害者福祉論Ⅱ | | 障害者福祉論Ⅱ（指定科目外） | |
| 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉 | 子ども福祉論 | | 子ども家庭福祉論Ⅰ | |

| | | | | |
|-------------------|------------------------|------------------|-----------------|---------------|
| 制度 | | | | |
| 低所得者に対する支援と生活保護制度 | 公的扶助論 | | 公的扶助論 | |
| 保健医療サービス | 医療福祉論 | | 医療福祉論 | |
| 就労支援サービス | 就労支援サービス | | 高齢者福祉論 I | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | | | 障害者福祉論 I | |
| | | | 公的扶助論 | |
| 権利擁護と成年後見制度 | 権利擁護と成年後見 | | 権利擁護と成年後見 | |
| 福祉サービスの組織と経営 | 社会福祉経営論 | | 社会福祉経営論 | |
| 更生保護制度 | 更生保護 | | 更生保護 | |
| 相談援助演習 | ソーシャルワーク演習 II | いずれか又は全ての単位がない場合 | ソーシャルワーク演習 I | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | ソーシャルワーク演習 III | | ソーシャルワーク演習 II | |
| | ソーシャルワーク演習 IV | | ソーシャルワーク演習 III | |
| | ソーシャルワーク演習 V | | ソーシャルワーク演習 IV | |
| | ソーシャルワーク演習 VI | | ソーシャルワーク演習 V | |
| 相談援助実習指導 | ソーシャルワーク現場実習指導 I | | ソーシャルワーク実習指導 I | |
| | ソーシャルワーク現場実習指導 II | | ソーシャルワーク実習指導 II | |
| 相談援助実習 | ソーシャルワーク現場実習 I (指定科目外) | | ソーシャルワーク実習 I | |

| | | | | |
|--|----------------|--|-------------|--|
| | ソーシャルワーカー現場実習Ⅱ | | ソーシャルワーク実習Ⅱ | |
|--|----------------|--|-------------|--|

別表第9（第51条関係）

令和3年4月1日の前日において本学の学生であったもの及び令和3年度又は令和4年度において社会福祉学科の3年次に編入学を許可された学生の精神保健福祉士短期養成施設等及び精神保健福祉士一般養成施設等指定規則（平成10年厚生省令第12号）に定める必修科目の読替表

| 令和2年度以前入学生及び令和3年度又は令和4年度編入学生必修科目 | | | 令和3年度以降入学生 必修科目における読替 | |
|----------------------------------|--------|------------------|-----------------------|---------------|
| 指定科目名 | 本学設置科目 | 備考 | 本学設置科目名 | 備考 |
| 人体の構造と機能及び疾病 | 医療概論 | | 医学概論 | |
| 心理学と心理的支援 | 心理学 | | 心理学 | |
| 社会理論と社会システム | 社会学概論 | | 社会学概論 | |
| 現代社会と福祉 | 社会福祉原論 | | 社会福祉原論Ⅰ | 両科目の単位修得が必要 |
| | | | 社会福祉原論Ⅱ | |
| 地域福祉の理論と方法 | 地域福祉論Ⅰ | いずれか又は両方の単位がない場合 | 地域福祉論Ⅰ | 両科目の単位修得が必要 |
| | 地域福祉論Ⅱ | | 地域福祉論Ⅱ | |
| 社会保障 | 社会保障論 | | 社会保障論Ⅰ | 両科目の単位修得が必要 |
| | | | 社会保障論Ⅱ | |
| 低所得者に対する支援と生活保護制度 | 公的扶助論 | | 公的扶助論 | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | | | 社会保障論Ⅰ | |
| | | | 社会保障論Ⅱ | |
| | | | 精神障害リハビリテーション | |

| | | | | |
|---------------------|-------------|------------------|----------------|---------------|
| | | | ヨン論 | |
| | | | ソーシャルワーク演習Ⅰ | |
| 福祉行財政と福祉計画 | 社会福祉行財政論 | いずれか又は両方の単位がない場合 | 社会福祉原論Ⅰ | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | 福祉計画論 | | 社会福祉原論Ⅱ | |
| | | | 地域福祉論Ⅰ | |
| | | | 地域福祉論Ⅱ | |
| 保健医療サービス | 医療福祉論 | | 社会保障論Ⅰ | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | | | 社会保障論Ⅱ | |
| | | | 精神医学と精神医療 | |
| | | | ソーシャルワーク演習Ⅰ | |
| 権利擁護と成年後見制度 | 権利擁護と成年後見 | | 権利擁護と成年後見 | 両科目の単位修得が必要 |
| | | | 精神保健福祉制度論 | |
| 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 | 障害者福祉論Ⅰ | いずれか又は両方の単位がない場合 | 障害者福祉論Ⅰ | 全ての科目の単位修得が必要 |
| | 障害者福祉論Ⅱ | | 障害者福祉論Ⅱ(指定科目外) | |
| | | | 精神保健福祉の原理Ⅰ | |
| | | | 精神保健福祉の原理Ⅱ | |
| 精神疾患とその治療 | 精神疾患とその治療Ⅰ | いずれか又は両方の単位がない場合 | 精神医学と精神医療 | |
| | 精神疾患とその治療Ⅱ | | | |
| 精神保健の課題と支援 | 精神保健の課題と支援Ⅰ | いずれか又は両方の単位が | 精神保健の課題と支援Ⅰ | 両科目の単位修得が必要 |
| | 精神保健の課題と支援Ⅱ | | 精神保健の課題と支援Ⅱ | |

| | | | | |
|-------------------|--------------------|------------------|----------------|--------------------|
| | | ない場 合 | | |
| 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎） | 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎） | | ソーシャルワーク論Ⅰ | |
| 精神保健福祉相談援助の基盤（専門） | 精神保健福祉相談援助の基盤（専門） | | ソーシャルワーク論Ⅲ | 全ての科目の単位 修得が必要 |
| | | | ソーシャルワーク論Ⅴ | |
| | | | 精神保健福祉の原理Ⅰ | |
| | | | 精神保健福祉の原理Ⅱ | |
| 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 | 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ | | ソーシャルワーク論Ⅶ | 全ての科目の単位 修得が必要 |
| | 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ | | ソーシャルワーク論Ⅷ | |
| | 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ | | 精神保健福祉の原理Ⅱ | |
| | 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ | | 精神障害リハビリテーション論 | |
| 精神保健福祉に関する制度とサービス | 精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ | いずれか又は両方の単位がない場合 | 障害者福祉論Ⅰ | 全ての単 位修得が 必要 |
| | 精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ | | 精神保健福祉制度論 | |
| | | | 精神障害リハビリテーション論 | |
| 精神障害者の生活支援システム | 精神障害者の生活支援システム | | 精神保健福祉制度論 | |
| 精神保健福祉援助演習（基礎） | 精神保健福祉援助演習（基礎） | | ソーシャルワーク演習Ⅰ | |
| 精神保健福祉援助演習 | 精神保健福祉援助演習 | | ソーシャルワーク演習Ⅵ | 全ての科 |

| | | | | |
|------------------|-------------------|--|-------------------|---------------|
| 習（専門） | 演習（専門） | | ソーシャルワーク演習Ⅶ | 目の単位 修得が必要 |
| | | | ソーシャルワーク演習Ⅷ | |
| 精神保健福祉援助実 習指導 | 精神保健福祉援助 実習指導Ⅰ | | ソーシャルワーク実習指 導Ⅲ | |
| | 精神保健福祉援助 実習指導Ⅱ | | ソーシャルワーク実習指 導Ⅳ | |
| 精神保健福祉援助実 習 | 精神保健福祉援助 実習 | | ソーシャルワーク実習Ⅲ | |